

## 「近畿シン（新・深・進・親・真）農泊報告&交流会」

令和8年2月13日（金）、大阪合同庁舎にて「近畿シン農泊報告&交流会」を開催しました。

農泊実践者、これから農泊を始めたい方・農泊に興味のある方、行政関係者、学生、農泊に関わりのある幅広い分野の事業者の皆さん等々総勢約100名参加のもと、半農半X<sup>\*</sup>の提唱者である塩見直紀氏をお招きし、新しい農泊のあり方について報告しあうとともに交流を深めました。



（開会時の会場の様子）



（北淡路農泊推進連携協議会 三谷さん）

第1部では近畿エリアで先進的な取り組みを実践する3地域（兵庫県淡路島、京都府綾部市、奈良県明日香村）より、それぞれの活動報告を行って頂きました。



（明日香交流人口推進協議会 下田さん）



（九州のムラ 養父さんと塩見さんのトークセッション）

第2部では塩見直紀氏とこれからの農泊の可能性や進め方についてディスカッションを行いました。

<sup>\*</sup>半農半X（はんのうはんエックス）：生活に必要な食料の一部を自らの手で作る自給的農業（半農）と、自分にとって意味のある仕事や活動（X）を組み合わせた生き方



(各地域の持ち寄りおやつを試食・展示会)

また、休憩時間に各地域の郷土菓子や商品の試食・紹介コーナーを設けたことにより、堅苦しい雰囲気や和らぎ、参加者同士がリラックスして交流できる場を創出したほか、閉会後は希望者を対象に懇親会を開催し、参加者同士の交流を更に深めることができました。遠くは長崎県島原市、鹿児島県頰娃町からもご参加いただきました！

【持ち寄りおやつ等の一例】



(奈良県大和郡 自然栽培のお茶)



(鹿児島県頰娃町)

自家製トウモロコシと枕崎産鰹節を使ったかつおコーン)



(長崎県島原市 かんざらし)



(滋賀県近江市 近江茶ジェノバーク)



(和歌山県由良町 みかんジュース)



(奈良県宇陀市 奈良漬)



(兵庫県淡路市 農薬一切不使用イチゴ)



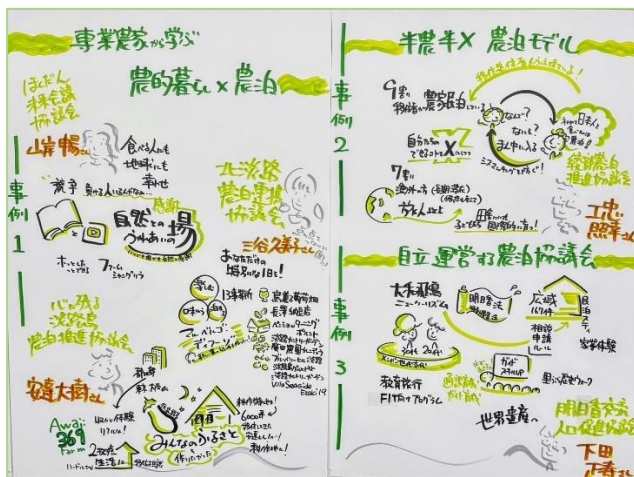
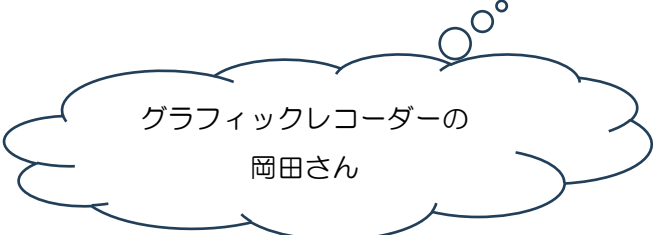
(兵庫県洲本市 伝統和菓子)

今回の交流会では新たな試みとして登壇者の発言や「半農半 X」「地域課題解決の仕組み」といった抽象的な概念を、その場でイラストや図解を用いて視覚化する「グラフィックレコーディング」を会場内で実施しました。

これは参加者全員の直感的な理解を促し、共通認識を醸成することを目的としたもので、完成したボードを通じて、全体の流れや、各要素の相関性を俯瞰して振り返ることができました。



### 当日のグラフィックレコーディング



## 【参加者アンケート回答】

アンケート結果は以下の通りとなります。

### ■参加者属性

農泊実践者（24%）

企業・団体（25%）

行政（25%）

学生（4%）

その他（22%）

その他：農家、個人、自営業、これから立ち上げる方、NPO 法人、  
個人事業主として農泊を推進されている方等

### ■各プログラムの満足度

- 全体（満足度 100%）
- 第1部事例報告（満足度 96%）
- 各協議会の持ち寄りおやつ（満足度 100%）
- 第2部トークセッション（満足度 91%）
- グラフィックレコーディング（満足度 79%）

### ■他地域の実践者にどんなことを聞いてみたいと思いますか？

（回答の多かった順）

- 組織運営について
- 人材育成について
- 外部との連携について
- 広報・情報発信について
- 実践者の拡げ方、仲間づくりについて
- 食やもてなし対応について
- 体験プログラムについて
- インバウンド対応について

### ■今後もこのような交流会に参加したいと思いますか？

- 興味のあるテーマの時に参加したい 44%
- 仲間づくりの機会として、今後も参加したい 40%

## ■特に印象に残ったこと、今後の参考になったこと

(ご意見・感想より抜粋)

・コンセプト、コンテンツ、それぞれの風土に合った色々なやり方がある事がとても参考になった。それらをボランティアではなく、ひとつの商売に繋げていくことが今後の課題。

- ・塩見さんのそれぞれの地域の特色への光の当て方が考えるヒントになった。
- ・近畿の農泊の取組みを知ることができ、つながることができて良かった。
- ・農泊に商工会の経営指導員が参画している点、参考にしたい。
- ・皆さん本気でやっておられる事を知った。
- ・シン農泊の交流会を定期的にして頂きたい。
- ・生き方、在り方、暮らし方にささる根っこの太さがしびれた。本質を探究しながら生きがい、やりがいと経済を共生させる取組みを実行したい。
- ・今の時代にあった農泊を推進していきたい。農泊は本業である農業の後押しになることを知らせていきたい。働き盛りの世代の農家にもっと農泊をすすめていきたい。観光事業社との連携も現実的かと思うので異業種連携についても知見を深めたい。
- ・中山間でも1つから、やれる事をやっていろんな人と農泊でつながっていけたら、田舎や村がなくならず継続していけると希望が持てた。外部の人たち(移住者)が頑張っているのので地元の人をもっとやれるようになっていきたい。
- ・地域の想い、アイデンティティーに人々が惹かれて訪れる。それこそが魅力と再確認した。
- ・自分たちでコツコツ積み上げて活動することが大事だと分かった。
- ・全国にたくさん農泊活性のために動かれている方がおられ刺激になった。
- ・コト、モノの掛け算やつながり、ネットワーク理念を共有、残しつつ継続性も考えさせられた。新しい農村の在り方、農泊の在り方を考えていきたい。
- ・移住するにあたって、今後の色々な可能性を考えるきっかけになった。
- ・休憩時に、色々な方々との交流が自分たちの活動をふりかえるきっかけとなった。
- ・人の生き様が物語をつくり、時代をつくっていくと思った。農業者とツーリストとの語らいやつながりが大切。
- ・持ち寄りおやつというユニークな休憩もあり良かった。
- ・持ち寄りおやつや発表では、みなさんの熱意がすごく感じられて感動した。学生として大変勉強になった。



(参加者の皆さんの集合写真)

## 【近畿シン農泊報告 & 交流会の開催意義について】

交流会では、農泊の実践が「半農半X」をはじめとする個人の自己実現と結びつくことで、耕作放棄地の再生や移住定住の促進といった地域課題を解決する重要な役割を担っていることを共有することができました。

地域に「一軒の宿（農泊）」が存在することで、その地域を訪れる動機となり、都市住民や海外旅行者が地域と継続的な関係性を生み出す拠点にもなります。今後も情報発信し続けることで地方への関心を高め、来訪を促し、移住・定住へとつなげていくことが望まれます。

アンケートでも、参加者の8割を超える方から今後も今回のような交流会に積極的に参加したいと回答があり、特に各地域からの持ち寄りおやつを試食・展示会については高い満足度が得られました。

また、今回の交流会をきっかけに、参加された学生さんが地域で新歓イベントを開催されたり、実践者どうしで視察勉強会を行われたり、学生さんどうしの交流も生まれたり等々、嬉しいお知らせも多々入っています。

農泊実践者や関係者らが一堂に会する交流会を今後も継続することで、連携をさらに強固なものにしていくことが期待されます。今回のアンケート結果も踏まえ、今年度は更に精度を上げた交流会の開催（秋～冬淡路島開催予定）を企画しておりますので、是非ともご参加ください！！